

鳥

中部山岳国立公園で見られる渡り鳥・留鳥の中には、以下の種がいます：

ライチョウ

ライチョウ（日本語で「雷の鳥」の意味）は、小さなニワトリほどの大きさの重い身体を持つ地上食餌型の鳥で、ハイマツの生える高山地域に生息しています。冬に羽が真っ白になることが知られています。高地に生息することから山の神の象徴とされたライチョウは、日本では歴史的にほとんど狩猟の対象になりませんでした。親しまれてきた鳥であるにも関わらず、現在ライチョウは絶滅危惧種に指定されています。人を怖がらないので、登山中度々目にすることができます。

イワヒバリ

縞模様の茶色の背中、灰色の頭、そして赤茶色の斑点のある胸を持つイワヒバリは、植生の少ない山地にみられます。標高 2,000 メートル以上で見られることもありますが、通常はそれより標高の低いところで越冬します。イワヒバリは飛びながら美しくさえずることで知られます。

ホシガラス

ホシガラスはカラスの仲間で、虫や木の実、松の種子を主食にしています。針葉樹の山林に生息し、食物を埋めた何百もの場所を覚えらるる抜群の記憶力を持ちます。ホシガラスの特徴的な白いまだら模様は優美で目を引きます。

哺乳類

中部山岳国立公園では、保全・啓発プログラムを通じて、この場所にくらす数多くの大小さまざまな生き物を保護しています。

オコジョ

オコジョは、イタチ属の中でも体の小さい種です。後ろ足で立っているときは愛らしく見えますが、このふわふわした動物は肉食性で、小さな哺乳類やライチョウなどの鳥を捕食します。

ニホンカモシカ

名前にはシカが入っていますが、カモシカはレイヨウの一種で、偶蹄目ウシ科に属します。カモシカは絶滅の危機には瀕していませんが、長野県と富山県の象徴とされていることから保護管理の対象となっています。

ツキノワグマ

ツキノワグマは中型で主に草食性ですが、小さな哺乳類、鳥、昆虫も食べます。胸に特徴的な三日月形の白いマークがあります。成体の平均体重は 135kg ですが、最大では 200kg に達します。

ニホンザル

Snow monkey としても知られるニホンザルは、中部山岳国立公園の多くの地域で見られ、特に上高地など北アルプスの標高の高い地域に生息しています。木の葉、タケノコ、昆虫、木の実などを食べます。一般的にはサルは熱帯地域の動物だと考えられているので、海外から訪れた人は、サルがこのような寒くて厳しい生息地に住んでいることによく驚きます。